



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第  
10号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第10号). 泌尿器科紀要 1999, 45(10): 744-744

ISSUE DATE:

1999-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114126>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編 集 後 記

京都大学臨床病態検査学一山 智教授の講演「院内感染症防止対策の効果的な行い方」を聞いた。いろいろと教えられるところが多かったが、日本の現状にあったマニュアルを作成し、それを実践して効果をあげていることに敬意を表したい。現状にあうということが大切で、欧米の予防対策をそのまま導入してもうまく行くはずがない。例えば MRSA 感染予防である。イギリス、アメリカのマニュアルには、感染患者を隔離するように書かれているが、個室の少ない日本でこの通りにしていたのでは、そうでなくても少ないマンパワーに負担がかかりすぎる。MRSA 感染ではなく感染症の発生を防げばよいのであって、その効果的な防止法はサイエンスに裏付けされた基本を守ることである。

日本の医療には随分矛盾が多いが、その最たるものは「無駄」である。年間30兆円もの医療費を使いながら、国民の医療に対する満足度は同じくらいの医療費を使っている国と比較してはなはだ低いのは、無駄が多いためマンパワーへ向ける経費が少なくなるからである。医療の無駄を少なくし、その分を医師、看護婦、コメディカルなどのマンパワーの増加に向けるよう、国をあげての改善が必要である。



やっと秋らしくなった。診療、研究、教育に追われていた日々を思い出すと、燈火親しむの候などと悠長なことは云っておられない気持ちも分からないではないが、本を読み、ものを書くのに適した季節である。より多くの本誌への投稿をお待ちしている。

研修医諸君！ 学会、研究会などで症例報告をし、それを論文にすることは臨床研修で最も重要なことのひとつである。特に諸君の奮起を促したい。

(吉田 修)